

感染予防論

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのようにかかわっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。

■**到達目標**：①生体の感染防御機構について理解する
②個々の病原微生物について、種類、感染経路、感染症の症状、診断、治療、予防について覚える。
③院内感染予防について理解する

■**担当教員**：

永坂 敦

■**授業計画・内容**：

- 第1回 微生物学の基礎、1
微生物学とは、微生物学の目的、微生物学のあゆみ、細菌の性質
- 第2回 微生物学の基礎、2
真菌、原虫の性質
- 第3回 微生物の基礎、3
ウイルスの性質
- 第4回 感染とその防御 1
感染と感染症
- 第5回 感染とその防御 2
感染に対する生体防御機構
- 第6回 感染とその防御 3
感染源・感染経路からみた感染症
- 第7回 感染とその防御 4
感染症の予防、予防接種とワクチン
- 第8回 感染とその防御 5
感染症の検査と診断
- 第9回 感染とその防御 6
感染症の治療
- 第10回 感染とその防御 7
感染症の現状と対策
- 第11、12回 おもな病原微生物 1、2
病原細菌と細菌感染症
- 第13回 おもな病原微生物 3
病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症
- 第14、15回 おもな病原微生物 4、5
おもなウイルスとウイルス感染症

■**教科書**：『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学』（医学書院）¥2,310

■**参考文献**：『最新感染症ガイド』日本版Red Book 日本小児医事出版社 ¥10,000+税

■**成績評価基準と方法**：試験100%、但し、可否判定には授業態度と出席状況を考慮する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	○	○	○		100%
授業態度				私語の禁止	考慮する
出席				2/3以上の出席	考慮する

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：医学の原点は感染症にある。感染症の歴史は人類と病原微生物との葛藤の歴史でもある。微生物に対する防御反応は生体が持つ基本的な免疫反応である。病原微生物について知ることは看護学への第一歩である。短期集中講義形式となりますが職業意識をもって立ち向かって下さい。